文字列関数で勝ち点を計算する

それでは、まず「試合結果」のシートのデータをもとに、「勝ち点」のシートに、試合ごとの勝ち点を表示する表を作りましょう。

1. ワークシートの見出しから、「勝ち点」をクリック

文字を取り出す

試合結果では、勝ち・引き分け・負けは、「○」「△」「●」であらわされています。

しかし、「試合結果」のシートでは、「3○2」のように、得失点も同じセルに入力されています。まず、**セルから「○」「△」「●」の文字を取り出しましょう**。

文字を取り出すには、いくつかの方法があります。LEFT関数とRIGHT関数を組み合わせることもできますが、ここでは、**MID**関数を使うことにします。

MID（文字列の指定した位置から指定した数の文字を返す）

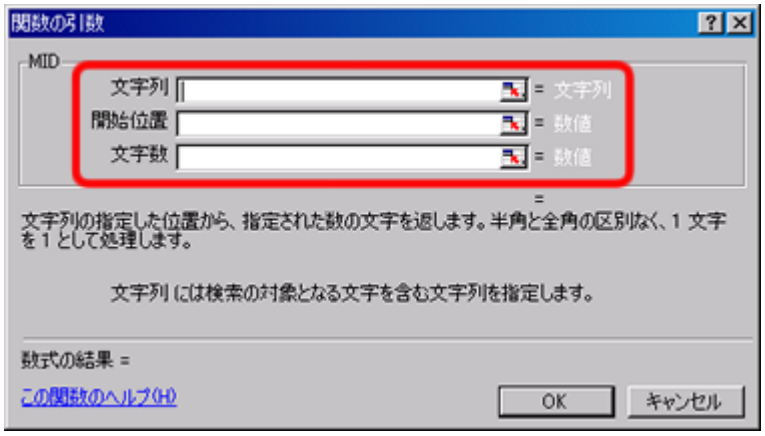
- 書式：LEFT(文字列, 文字数)
- 引数：文字列 ：文字を取り出したい文字列やセル
- 引数：開始位置 ：取り出したい文字列の先頭文字からの位置
- 引数：文字数 ：取り出したい文字数
- 例：C7セルの文字列の3文字目から2文字分の文字列を取り出す

```
=MID(C7,3,2)
```

試合結果は「3○2」のようになっているので、MID関数を使って、「**左から2文字目から1文字分取り出せ**」ば、記号を取り出すことができます。

では、次のようにして、関数の機能を試してみましょう。

1. B2セルをクリック
2. 数式バーの「**関数の挿入**」ボタンをクリック
3. 利用する関数の選択
   - 「関数の分類」から「文字列操作」を選択
   - 「関数名」から「MID」を選択
   - 「OK」ボタンをクリック
4. 引数の設定
   - 「文字列」の入力欄をクリックし、「試合結果」のシートの見出しをクリックした後、B2セルをクリック
     （自動的に「試合結果!B2」と入力される）
   - 「開始位置」の入力欄をクリックし、「2」と入力
   - 「文字数」の入力欄をクリックし、「1」と入力
   - 「OK」ボタンをクリック



記号を取り出すことができましたか？

条件判断をする

記号を取り出しただけでは、勝ち点を計算することができません。勝ち点は、次の表にしたがって計算されます。

勝敗	勝ち	引き分け	負け
記号	○	△	●
点数	3点	1点	0点

このように、記号にしたがって、表示する点数を変えるようにしましょう。

ある条件ごとに処理を変える、「**条件判断**」をするには、**IF**関数を使います。

IF（指定された条件（論理式）が合っているか（真）違っているか（偽）を判断し、真と偽のそれぞれの場合の結果を返す）

- 書式：IF(論理式, 真の場合, 偽の場合)
- 引数：論理式：評価する条件（比較演算子を使う）
- 引数：真の場合：論理式の結果が真(TRUE)の場合に返される値
- 引数：偽の場合：論理式の結果が偽(FALSE)の場合に返される値
- 例：D1セルの値が0なら"ゼロ"を、0でないなら"ゼロじゃない"と表示

```
=IF(D1=0,"ゼロ","ゼロじゃない")
```

論理式には、次のような**比較演算子**を使います。条件を正しい場合は「TRUE」（真）、正しくない場合は「FALSE」（偽）と判断します。

演算子	式	内容	例	結果
=（等号）	A=B	AとBが等しい	1=2	FALSE
<>（不等号）	A<>B	AとBが等しくない	3<>4	TRUE
>（～より大きい）	A>B	AがBより大きい	5>6	FALSE
<（～より小さい）	A<B	AがBより小さい	7<8	TRUE
>=（～以上）	A>=B	AがB以上である	9>=10	FALSE
<=（～以上	A<=B	AがB以下である	11<=11	TRUE

MID関数とIF関数を使えば、「**試合結果から勝敗の記号を取り出し、記号にあった勝ち点の数字を表示させる**」ことができます。

鹿島アントラーズの第1節の勝敗は、次のように考えられます。

「B2セルから記号を取り出して、その記号が○ならば「3」を表示する」

つまり、B2セルの計算式は、次のようになります。計算式のどの部分がIF関数の式で、どの部分がMID関数の部分かに注意して、計算式を入力してください。

```
=IF(MID(試合結果!B2,2,1)="○",3)
```

関数をネストにする

このままでは、勝ちの場合の勝ち点は表示できましたが、引き分けや負けの場合の点を表示できません。

さっきの式、

```
=IF(MID(試合結果!B2,2,1)="○",3)
```

では、IF関数のなかで、MID関数を使っています。

このような関数の中で別の関数を使うことを、「**関数のネスト**」といいます。

MID関数を使った「△」や「●」を取り出す部分を、IF関数の中に追加してみましょう。

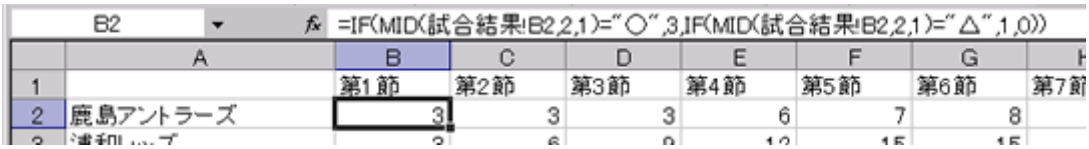
すると、鹿島アントラーズの第1節の勝敗は、次のように考えられます。条件が偽の場合に、もうひとつIF関数を使うのがポイントです。

（条件）B2セルから取り出した記号が
（条件が真）○ならば「3」を表示する
（条件が偽）（追加条件）B2セルから取り出した記号が
　　（条件が真）△ならば「1」を表示する
　　（条件が偽）「0」を表示する

つまり、B2セルの計算式は、次のようになります。計算式のどの部分がどの関数の式なのかに注意してください。

```
=IF(MID(試合結果!B2,2,1)="○",3,IF(MID(試合結果!B2,2,1)="△",1,0))
```

計算ができたら、計算式を他のセルにコピーしましょう。第6回の内容を参考に、「**オートフィル**」機能を使って、B2～AE19セルに計算式を、コピーしましょう。



次へ進んでください。

}}